



## 第3領域

# 「たしかな未来へのたしかな架け橋」

(中長期目標設計とバックキャストिंग手法によるアクション設計)

この領域は、次世代からの視点で目標を定め、効果的で効率的な環境改善手法を考えることを目的としています。  
(2011年6月までの領域)

### 地域住民とともに創る「サステナブル都市新宿」

＜研究・活動名＞現実的なバックキャストिंगを実践する学生コンサルタントの育成

＜代表者 / 団体＞早稲田大学環境総合研究センター准教授 小野田弘士 / 新宿区エコ事業者連絡会

都市部における温暖化対策の具体的な方法論をモデル的に提示することを目的として、早稲田大学が保有する省エネ・省CO<sub>2</sub>技術を活用して大学構内の自販機利用改良など様々な実績を上げるとともに、早稲田大学と新宿区が連携して行う人材育成プロジェクトにコンセプトが引き継がれ、プロジェクトを終了しました。(2009年1月より半年に1回の審査を受け、2011年6月に終了)

### 学生が担う地域活性化と環境保全

＜研究・活動名＞学生ボランティアと地域活性化による環境保全の連携に関する研究と実践

＜代表者 / 団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 加藤基樹 / WAVOC まつだい 早稲田じよんのびプロジェクト

新潟県十日町市を拠点に、地域と密着した冬季の雪かき支援、棚田米づくり、菜の花プロジェクト、地域の人々とともに創る広報誌などを通じて、次世代への活動の継承と幅広い年齢層の参加が可能なシステム構築が進みつつあります。このプロジェクトは、地域の方々の評価も高く、全国的なモデルの一つとしての成長が期待されています。(2009年7月より半年に1回の審査を受け、現在は新しい領域で継続中(7ページ参照))

### 企業 CSR と地域交流

＜研究・活動名＞企業の A-EMS と CSR-MS による地域交流と健康増進

＜代表者 / 団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 黒澤正一 / NPO 法人栄村ネットワーク

ISO26000 準拠の本業 CSR を基盤として、企業が生活者とともに積極関与する「農山村と CSR 企業の連携」の研究と実践を目指しています。本プロジェクトのフィールドである長野県栄村は3月の大震災で震度6強の揺れがあり、壊滅的な被害を受けましたが隣村の協力などもあり、プロジェクトは進行するとともに、全国に適用できるモデルづくりとして成果を上げています。(2010年7月より半年に1回の審査を受け、現在は新しい領域で継続中(7ページ参照))

## 女性から見た環境・社会貢献活動

＜研究・活動名＞女性生活者からみた環境・地域貢献の在り方に関する研究 ～地域版環境ベルマークへの基礎研究～

＜代表者 / 団体＞大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授 永田潤子 / NPO 法人中部リサイクル運動市民の会

環境に対する意識が女性と男性ではかなり異なることをベースとし、女性生活者による3R活動を通じた環境問題の解決を推進するために、①社会に働きかけるコンセプトと個人へのメッセージからのアプローチ検討と実証実験 ②ビジネスモデルとして持続可能性を担保する仕組みに関する研究などを進めています。(2010年7月より半年に1回の審査を受け、現在は新しい領域で継続中(7ページ参照))



写真 上段：(加藤プロジェクト)  
 (左から時計まわりに) 雪かき支援、じよんのび米  
 棚田米の田植え、広報誌  
 下段：(小野田プロジェクト)  
 大学構内の自販機(左)  
 (黒澤プロジェクト)  
 シンポジウム(中)  
 (永田プロジェクト)  
 名古屋エコロジーセンター(右)



名古屋大学創設85周年記念事業として、  
**エコロジーセンター Re☆創庫**  
 学生向け、市民向け、市民向け、市民向け  
 エコロジーセンター Re☆創庫では、  
 ● 実験 リユース&リサイクルステーション  
 ● 月台ショップ(リユース品の販売)  
 (営業時間：午前11時～午後5時)  
 ● ものづくり教室  
 などを行っています。ぜひご利用ください!!

## 第4領域



# 「地域と世界を生き生きとつなぐ環境情報の 架け橋」

(環境情報の世界発信を通じた日本および各地域の共時的精神空間の形成)

この領域は、環境に関する情報を世界へ効果的に発信し、コミュニケーションする手法を考えることを目的としています。  
(2011年6月までの領域)

### 環境日本学の世界への発信

<研究・活動名>地域社会との連携による環境日本学の創成とその情報発信システムの構築

<代表者 / 団体>早稲田大学アジア太平洋研究科教授 天児慧 / 日本環境ジャーナリストの会

地域社会との連携による環境日本学の創成とその情報発信システムの構築を進めています。その成果は「高島学」として出版された書籍の一部に反映されるなど、震災後の社会の方向性を示したものとして高く評価されています。(2010年7月より半年に1回の審査を受け、2011年6月に終了)

### 文明と環境に関する知の対話

<研究・活動名>W-BRIDGEの成果を踏まえた環境・文明・完成に関する知のリーダーの対話 — 東洋的感性を世界に発信する —

<代表者 / 団体>早稲田大学国際部准教授 江正殷 / 文明と環境を考える会

W-BRIDGEの成果を踏まえた環境・文明・感性に関する知のリーダーの対話を行うことにより、東洋的感性の世界への発信を試みています。その成果はW-BRIDGEプロジェクト全体に引き継がれ、とりわけ東日本大震災後の情勢を踏まえた書籍の発行によって発表される予定です。(2010年7月より半年に1回の審査を受け、2011年6月に終了)



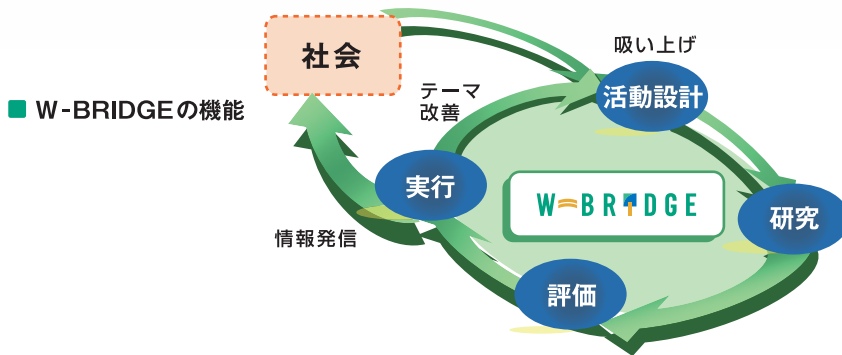
写真 (天児プロジェクト、江プロジェクト合同)  
日中環境問題セミナー (左、右)

## W-BRIDGE では、その目指す機能を十分に発揮するために、下記の活動も併せて行っています。

- ・ 効率的な研究・活動を実施するための情報収集、評価指標の開発実施
- ・ 研究・活動委託のとりまとめと個別研究・活動の支援
- ・ シンポジウム・研究発表及びイベントの開催
- ・ 環境活動・環境教育支援
- ・ 情報発信（公開講座、活動報告、出版、ホームページ等の実施）



写真 W-BRIDGE が企画、運営面で支援を行なったブリヂストン森林教室 in エコピアの森



### ◆ 執行組織（運営委員兼任）

代表	堀口健治（早稲田大学）
副代表	堀尾正毅（早稲田大学）
副代表	勝田正文（早稲田大学）
副代表	平田 靖（ブリヂストン）
研究マネジメントチームリーダー	岡田久典（早稲田大学）
事務局長	永井祐二（早稲田大学）
研究員	中島勇介（ブリヂストン）

### ◆ 運営委員

松田 明（ブリヂストン）	大聖泰弘（早稲田大学）
濱田隆次（ブリヂストン）	永田勝也（早稲田大学）

# W-BRIDGE

## '11 年度活動報告



2011年 12月15日 発行

発行 早稲田大学環境総合研究センターW-BRIDGE  
〒162-0041

東京都新宿区早稲田鶴巻町 513

研究開発センター 3-102

TEL: 03-5292-3526 FAX: 03-5292-3527

E-mail: w-bridge@list.waseda.jp

URL: www.w-bridge.jp/

制作 W-BRIDGE

協力 松元貴志、西尾ゆかり

2011 Printed in Japan © W-BRIDGE